

埼玉県西部山麗越生町周辺の地理学的考察

青木和子

目次

- 第一章 地域の概観
- 第二章 地形
- 第三章 農業と農業に関連した地域産業
 - 第一節 農業の現況
 - 第二節 養蚕業
 - 第三節 林業
- 第四章 地域性

調査地域は埼玉県入間郡の北西部に位置し東京から約50 Kmの距離にあり、西は八王子構造線とよばれる古い断層崖によって古期山地が発達し東はこの山地を源とする越辺川と高麗川の合成扇状地からできている。この扇状地は、侵蝕、隆起を数回くりかえし数段の小起伏の台地面を形成し、ほぼ北東方向に高度を減じ、関東造盆地運動の影響と思われる。

各台地面の境界は明瞭な崖による所が少く傾斜のちがひ、開析の度合、ローム層の堆積などによって分類した。台地面のローム層の堆積は一般に2~5 mで南の入間台地と比べると薄く、ローム層の下は西部の秩父古生層起源の亜角礫層が堆積し、その下は、第三紀の青色頁岩が基盤となっている。

このように西から東へ山麗から丘陵、台地低地と地形の変化が、農業の形態、経営規模などにあらわれ相当の格差がみられる。

西の山麗地域は一戸当の耕地面積は平均3~5反の農家で農業収入も10万円以下の階層が圧倒的で一般に零細な農業経営である。そのために農業以外の林業、絹織物業、建具業などに古くから従事し第二種兼農の割合が高い。一方東の平坦地へ行くにつれ耕地面積も平均6~9反へと増し農業収入も10~20万円層が大半を占め農業を主にする地域で中農型が多い。最近では都市労働者として外へ出ていく農家が多いが、収入面では農業収入の方が高く一般に出稼ぎとして農閑期を利用している。

全地区を通して兼業による収入が増えた事で農業に対する積極的改善、近代化は余り見られず、

局部的には養鶏、養豚の大規模な企業経営が行われているが、一般に従来通りの農業を行っている。この地域の特徴として、養蚕普及率も30~70%と県の平均(30%)を上まわり現在も県の有数の養蚕地域であり、今後も養蚕を中心とした農業経営を行っていくようである。

西部は林業は江戸時代からの伝統的産業で短期伐採と労働力を多く使う事が特徴となっていて樺ひのきの良材地として有名であるが、現在は人手が都市労働者として吸収され又外国材の安価なものの導入で昔のような活発さはなくなっている。しかしこの地域の重要な産業の一つとして現在もその地位を保っている。

御殿場周辺の地理学的考察

浅井美恵子

第一章：調査地域の自然環境

調査地域は富士山東麓で、北は丹沢山地、東は箱根外輪山、南西は愛鷹山に囲まれた南北15Km東西11Kmにわたる盆地状の地域である。御殿場市街附近で海拔456mの高原で、市街と富士山頂を結ぶ線が、南流する黄瀬川と北流する酒匂川の分水嶺となっている。地形は、富士山麓区、黄瀬川低地及び段丘区、酒匂川低地及び段丘区、箱根火山斜面区、丹沢山地斜面区の5つに区分される。

第二章：人文概説

本地域は古代から東西交通の要点として栄えた所で、特に明治22年の東海道線の開通によって御殿場は、物資集散の地、富士登山口として俄かに発展した。明治45年には、御殿場を中心に、北の小山町、南の裾野町にまたがる9021町歩の富士中腹が、陸軍の演習場に設定された。当時は村民による入会が行なわれていたが、昭和25年に、連合国軍により接収されてからは、演習地内での入会は禁止され、農民に大きな影響を与えている。

第三章：農業土地利用

御殿場を中心とする富士東麓は、縄文時代からの人類居住の歴史をもち、火山山麓でありながら水に恵まれていた為、早くから水田が開け、現在も農用地の60%余りが水田である。水稲農家は全農家の85%を占め、米は農産物生産高の54.1%を占める。そして水田はその97.5%迄が1毛作田で、農業は、水田単一耕作型である。しかし水稲を中心にしながらも作目的には多彩で、水掛け菜、水掛け麦、山葵・桑・茶・牧草・花卉等が栽培されている。又養鶏、養豚を中心とする畜産も、演習場補償事業との関係で、近年さかんになってきた。農業用水は、湧水地を源として山